

2020 年度 事業報告書

はじめに

1) 外国語電話相談	1
2) HIV 陽性者等のための多言語での個別支援	2
3) グループプログラム	5
4) 多言語支援	9
5) 調査研究	14
6) 実習生・研修及び受け入れ	15
7) 広報	15
8) 理事会	15
9) 会員総会	16
10) 事務局	16
11) 会員	17
12) 寄付者一覧（敬称略）	17
13) コングラントサービスの導入	17

決算報告



はじめに

新型コロナウイルス感染症(以下新型コロナ)による最初の緊急事態宣言は 2020 年 5 月まで続きました。そして 1 年後の現在、私たちは政府が発令した 3 回目の緊急事態宣言の中にいます。昨年からの非常事態は、私たちの生活を大きく変えました。その一つに会議や授業がオンラインに大きくシフトさせられているということがあります。医療従事者を育てる教育も大きく影響を受けており、医療機関での実習生は中止や縮小となっています。将来の医療従事者にとって患者と直接接する経験は、他の方法では補えない重要な学びの機会です。様々な場面に対応できる医療従事者の不足は、社会的に弱い立場にある人々に特に大きな影響をもたらしていることは新型コロナの経験から明らかになりました。これからの医療従事者は、その時々に対応していることに対応できる能力を身につけることが今まで以上に求められています。

CHARM は設立当初から人材育成に力を入れてきました。対人援助食である福祉、神学、そして医療、そして 2020 年度から看護の若者を受け入れてきました。コロナ禍の様々な制限にもかかわらず、学生は CHARM が取り組んでいる日本に暮らす外国人の健康支援や HIV 陽性者の支援、などの経験を直接学ぶことができました。将来の医療従事者の教育は、市民社会と医療機関、医療従事者と個人の共同作業によって初めて可能となります。CHARM がこれからも世界的視野を持った人間を育てるために若者の育成の使命も果たし続けていくことを願っています。

エレラ・ルルデス・ロザリオ
Herrera Lourdes Rosario
CHARM 理事
大学教員



<英語原文>

The first state of emergency due to COVID-19 in Japan, extended through May of 2020. A year later, we are living amidst the third state of emergency issued by the Japanese government. Our lives are heavily entrusted to online communications. Education of future health professionals is also affected. In the specific case of health professions students, health facilities have restricted or refused clinical experiences to protect both patients and students. Patient contact is essential and unique for the educational experience of future health professionals. COVID-19 has affected life at all levels, and having reduced numbers of health workers or less prepared health workers may hit harder on vulnerable communities. Future health professionals need training that is connected to real life more than ever.

Since its start in 2002, CHARM has been providing internships and accommodating students in the fields of Social Welfare, Theology, Medicine, and from 2020 Nursing. Despite the limitations derived from the pandemic, students have benefited from CHARM's experience and are learning firsthand that supporting the health of foreigners, people living with HIV and addiction, etc., requires the joint efforts of civil society, health facilities, health workers and individuals. We hope that CHARM will continue to fulfill its mission and to help develop future health workers with glocal perspectives.

●2020 年度 CHARM 事業報告書

1) 外国語電話相談

外国語によるエイズ電話相談

活動開始年：2002 年

目的：日本語以外の言葉を話す人たちが理解できる言語で HIV、他の性感染症について相談をしたり、検査や診療に関する情報を得る機会を提供するために 5 言語で電話による相談を行っている。

頻度：毎週火曜日 スペイン語、ポルトガル語、英語、16:00-20:00

水曜日 中国語 16:00-20:00

木曜日 フィリピン語、英語 16:00-20:00

2020 年度は 207 件の相談を受けた(2019 年度より+11 件)。

言語別相談数は英語が一番多く 74 件(昨年度より-14 件)、ポルトガル語 51 件(+4)、日本語 36 件(+17)の順となり、その他はスペイン語 10 件(+2)、フィリピン語 6 件(+5)、タイ語 13 件(-5)、医療機関 5 件(-10)、そして 2020 年度にタイ語に代わって、スタートした中国語の相談が 12 件だった。

2020 年度 対応言語及び件数

月 言語	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間 合計
日本語	2	4	4	2	4	7	4	3	4	0	2	0	36
英語	13	4	4	3	5	5	4	6	8	11	6	5	74
スペイン語	1	0	3	4	1	0	0	0	0	0	1	0	10
中国語	2	1	2	1	1	0	1	1	0	0	1	2	12
ポルトガル語	0	5	4	6	6	2	4	7	7	4	2	4	51
フィリピン語	1	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6
タイ語	0	1	2	1	1	3	2	1	0	0	2	0	13
医療機関	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	5
合計	22	15	20	21	18	17	15	18	20	15	15	11	207

相談内容の多い順番は行政手続きの方法(47 件)、医療機関の紹介(39)、HIV に関する情報(38)、HIV 陽性者(以下陽性者)が利用できる社会福祉制度、医療費、薬価に関するもの(34)、外国語の通じる抗体検査会場の紹介(34)だった。2020 年はコロナ禍の影響で、海外からの郵送物が届かない期間もあり、これまで日本で生活しながらも日本の医療機関で HIV の診療を受けず、母国から抗ウイルス薬を送ってもらった外国籍住民の日本の医療機関での治療の方法や抗ウイルス薬の入手の仕方について相談が多く寄せられた。

2021 年度は、インドネシア語、ベトナム語の相談に対応する体制を構築する予定である。

2020 年度 相談内容(複数回答あり)

月 内容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間 合計
外国語の通じる抗体検査会場の紹介	1	2	3	5	4	1	2	5	2	7	1	1	34
外国語の通じる医療機関の紹介	6	2	2	4	3	0	2	6	1	2	3	1	32
行政手続きの方法	2	5	6	5	4	6	3	2	4	1	6	3	47

性感染症、婦人科系の問題	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	4
HIV に関する情報	3	2	3	7	6	3	2	1	4	2	3	2	38
陽性者の症状、薬の副作用	1	1	2	0	1	0	1	1	2	0	0	1	10
陽性者の社会福祉制度、医療費、薬価	6	2	2	2	4	5	1	3	2	3	3	1	34
陽性者の不安、心理的問題	3	5	5	3	4	3	3	5	3	3	3	1	41
海外の HIV 診療事情、受入れ機関紹介	1	0	1	1	2	0	1	2	0	0	0	2	10
陽性者 その他	6	1	1	3	3	2	3	0	4	2	4	1	30
医療機関紹介	3	2	2	5	8	5	4	3	3	1	3	0	39
NGO/NPO 紹介	0	2	1	2	1	0	0	1	2	3	2	3	17
HIV を含む性感染症への不安	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1	6
その他	1	0	0	2	1	1	0	1	5	0	1	1	13
合計	34	24	28	40	41	28	23	31	33	24	31	18	355

2) HIV 陽性者等のための多言語での個別支援

個々人の事情と背景が異なる。個別支援が CHARM が行う支援の始まりであり基本である。今年度は、コロナ禍でこれまでとは異なる対応を行った。

2-1) 多言語対面相談

今年度の特徴は、春ごろから、外国籍住民から新型コロナにより国際移送が止まったため、国から薬を送ってもらえなくなったという問い合わせが続けて寄せられた。

2020 年 4 月から 2021 年 3 月までの相談件数は 20 件であった。相談を受けた中で日本の医療システムにつながることができたのは、12 件であった。その内 HIV 医療の医療補助である自立支援につながったのは 8 件である。残りの 4 件は、自立支援申請に至らなかった理由として、母国の方針で治療開始時期が早く CD4 の値が低いデータを持っていないケースが 1 件、検査データは個人情報であるため本人自らが母国の医療機関に出向かないと渡せないというケースが 1 件、難民申請者中のため在留資格がなく医療保険に加入できなかったケースが 2 件であった。

日本の医療機関につながる事がなかった 8 件は、旅行者など一時的な滞在のため日本における在留資格が短期のものであるため医療保険に加入できなかった人が 3 件、入管施設内で服薬を開始したが出所後医療支援の対象とならず帰国を待つしかなかった人が 1 件、途中で連絡が取れなくなった人が 4 件であった。相談者の言語などの内訳については、以下の 2-3) HIV 医療などの情報提供を参照のこと。

今年度これらの相談に対応したことから見えてきたことは、以下の 3 点である。1) 来日外国人陽性者は、日本の医療につながる方法が分からない人が多い。2) 医療補助の基準に合わない陽性者が日本の社会保障につながっていない。国際的に HIV 診療は早期の治療開始が常識となっているなかで日本は特殊であるが、その違いにより影響を受けるのは移住者である。3) 旅行などの理由で一時的に日本に滞在している人は日本の医療制度の対象ではないが、今回のコロナ禍では、1 年に渡って帰国することができず、滞在の実態は長期になる。緊急事態のなかで長期に滞在せざるを得ない外国人に対する医療を検討する必要がある。

2-2) 公的保険でカバーされない陽性者支援「そよかせ」

活動開始年：2015 年

目的：高齢となる陽性者や複数の疾患のある陽性者が安心して地域で生活し続けるために介護保険等による

サービスがカバーしない支援を日常的に必要とする場面で支援を提供することを長期的に行うことを通して信頼関係を築き、助けが必要な時に頼める存在となることを目指す。

活動内容：エイズ拠点病院や訪問看護ステーションと連携して一人で暮らす陽性者が必要とする支援を行いながら関係性を構築する。介護保険など公的支援が適応しない支援の中には拠点病院への同行、入退院の援助、散歩や買い物等の同行、などがある。

メンバー：4 名がボランティアで活動している。コーディネーター 1 名。

開催頻度：随時

ミーティング 毎月 第 2 木曜日 13：00～15：00

今回は緊急事態宣言による自粛のため、2 回のみ開催となった。

委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

利用者は、新型コロナへの感染リスクについて熟知しており、来訪者との接触を一定期間自粛していたため、訪問は一定期間行わなかった。一方、緊急入院された方の荷物運搬の支援、転居先物件を探す際の同行などが加わり、定例相談と合わせて訪問支援件数は 20 件であった。（2019 年度は 21 件）

2-3) HIV 医療などの情報提供

2020 年度は CHARM のホームページのお問い合わせフォームを利用した問い合わせの中で HIV 関連の内容のものが 62 件あった。

使用言語は英語 40 件、ポルトガル語 8 件、日本語(外国人関連)6 件、中国語 3 件、ベトナム語 2 件、日本語 2 件、スペイン語 1 件だった。（図 1 参照）

問い合わせ内容が多かったのは日本の HIV 治療についてが 48 件で、その内訳は来日前の外国人からのお問い合わせが 23 件、在日外国人から 21 件、コロナ禍のため母国に帰国できなくなった観光客から 3 件などだった。（図 2 参照）

HIV 関連の問い合わせが 62 件。そのうち、日本での HIV 治療についての内容が 48 件(77%)を占めており、その約半数が来日前の外国人からであった。CHARM のホームページが多言語で情報を発信していることで、日本に在住していない人々にも相談の窓口が開かれていることがわかる。（図 3 参照）

来日前の外国人及び在日外国人から今年度 CHARM に寄せられた問い合わせの内容を反映して今後ホームページなどで求められている情報を発信できるよう改定していく予定である。

2020 年度 インターネット(お問い合わせフォーム)による HIV 関連の問い合わせ実績（62 件）

図 1 問い合わせの言語

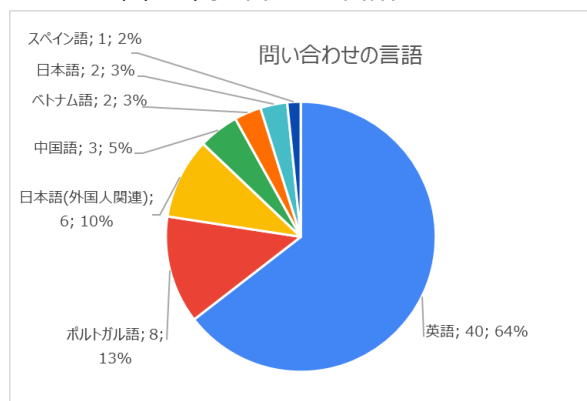


図 2 問い合わせた人の状況

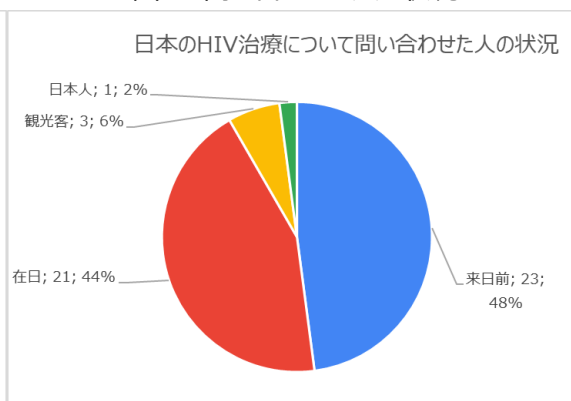
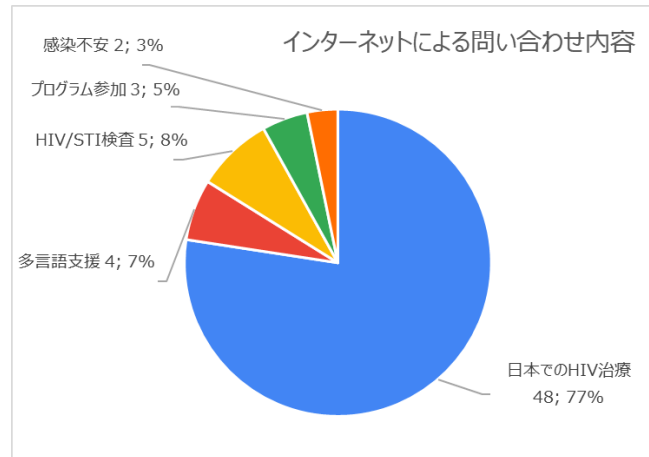


図3 インターネットによる問い合わせ内容



2-4) エイズ専門相談支援事業

活動開始年：2011 年

目的：

- 1) 大阪市内で行っている HIV 検査後、検査結果が陽性と判明した人にカウンセリングを行う。必要とする情報を提供することで、不安を軽減しエイズ拠点病院での診療につなぐ。
- 2) 大阪市立病院で通院又は入院治療を受けている患者の要望に応じてカウンセリングを行う。
- 3) 中央区、北区の保健福祉センターで月 2 回ずつ HIV 検査時に受検者に HIV をはじめとした性感染症等の相談の機会を提供する。

登録カウンセラー：臨床心理士、ソーシャルワーカー、看護師 6 名

頻度：必要に応じて随時

委託元：大阪市保健所

2020 年は世界的な新型コロナの流行となり、新年度早々の 2020 年 4 月 14 日より 5 月末まで大阪市内では HIV 及び性感染症の検査は中止となった。6 月からは中央区と北区保健福祉センターでの検査は再開したが、新型コロナへの感染を警戒してか検査が不要不急と捉えられているのか、検査件数はなかなか元に戻らず、陽性告知も減少した。

保健福祉センターの陽性告知件数は年間で 9 件と 2019 年度 28 件から 19 件の減少であった。また男性同性愛者のための HIV 等検査事業 dista での陽性告知は 1 件であった。

大阪市民病院機構へのエイズ相談員派遣は、31 件で 2019 年度の 25 件に比べて 6 件増加した。

内新規者は 3 名であり、病院での需要に変化はない。

CHARM では、大阪市からの委託で中央区、北区の 2 保健福祉センターで毎月 2 回 HIV 検査時の定例相談に従事しているが、相談に来る若者が性感染症について知識を持っていないことを強く感じる。今後は相談者が少しでも興味を持てるように、CHARM で作成した資料など若者へ配布できるものを整備していく計画である。

相談員の連絡会議は、2020 年 5 月と 2021 年 3 月の 2 回、オンラインでの会議を行い、ケースの対応検討と情報交換を行った。

3) グループプログラム

3-1) HIV 陽性と分かって間もない人のためのグループミーティング「ひよこクラブ」

活動開始年：2009 年

活動内容：HIV 陽性とわかって原則 1 年以内の人を対象とした少人数制(定員 6 名)のグループミーティング。同じ時期に陽性とわかった「仲間」と話し合うこと、正しい医療情報を得ること、そして新しい生活を安心して送ることができるようにする。

開催頻度：地域開催 1 回、オンライン開催を含む定期開催 5 回 (実施回数は 0 回)

運営方法：運営スタッフ会議 (医療従事者、ピア、対人援助、事務局) 計：14 名

委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

2020 年度は①定期開催②地域開催③コロナ禍におけるオンライン(zoom)開催を試みた。

① 地域開催は、西日本圏の拠点病院アンケート結果をもとに 2019 年度より準備と広報をした。2020 年 5 月に愛媛県での開催を予定したが、コロナ禍で運営スタッフが大阪から地方に行くことが憚られ中止となった

② 定期開催は、参加者が予定をたてやすいように、6 月より偶数月の第 1 日曜日に設定した。6 月、8 月、10 月の定期開催は広い会場を借りる、参加定員を減らすなどの十分な感染防止対策をもって準備をしたが、これもコロナ禍の影響が大きく、問い合わせは 1 件もなかった。

③ 11 月にオンライン運営会議を開き、「ぶれいす東京」スタッフを講師に迎え、オンライン開催の方法と可能性について協議した。そして 12 月は原則オンラインで開催すべく準備と案内をした。12 月、2 月の予定に関しては計 3 件の問い合わせ、参加希望があったが、参加まで至らずオンラインによる定期開催も休会となった。

希望者には陽性になって間がなく不安を抱いており、また情報を得たいということで個別対応も考えることを伝え、繋がりが切れないように、必要に応じてメールで連絡を受けることとした。参加に関心を持っていた人たちは、海外での医療や薬の情報を事前に知りたい、医療関係者と対等の立場で話したい、同じ境遇の人から家族との関係や日々の生活などについて直接聞きたいなどの内容があがっていた。

 HIV ポジティブとわかっておよそ 1 年以内の人たちが安心できる 場所で、情報や体験を共有しながら、これからの生活のより 良いスタートにつなげて行くための、半日間のプログラムです。	
開催日時 13:00~17:30	2020/8/2(日) 10/4(日) 12/6(日) 2021/2/7(日) 新型コロナへの対応のため、予定通りに開催できないこともありますので、あらかじめご了承ください。 詳しくはホームページをご確認ください。

運営会議では、オンラインでのオリエンテーションを始め、実際の進行、内容、アンケート、フォローアップ方法などをスタッフが役割分担してリハーサルを実施した。コロナ禍であっても日々新たに HIV 陽性が判明した人は存在し、感染症対応の病院が新型コロナで緊急事態宣言の中、孤独に埋没していくのではないかと懸念している。こんな時だからこそ、人に出会い、安心して話し、経験や想いを共有し孤独感を軽減できるよう「ひよこクラブ」は、開催を諦めずに門戸を広げ続けた。

しかし、参加に際しては、受診病院の紹介が必要となり、担当医師が新型コロナ対応で余裕がなく外部プログラムの紹介までできなかったことも一つの要因である。また、感染に対する不安が強い陽性者も多く、交通機関を使った移動や人と会うことに慎重であることも、今年度開催に及ばなかった原因と考えている。

コロナ禍の影響もあり従来の開催方法では参加の増加は見込めないことから、あらためてニーズを調査し、参加者にとって参加しやすいプログラムを提供することが課題である。

運営会議は計 4 回リモート開催され、プログラムのリモート開催のための研修、予行演習など活発に行った。この研修は 2021 年度、地域を超えて希望者が参加できる可能性をもっている。

3-2) 女性交流会

活動開始年：2007 年

目的：女性 HIV 陽性者が、同性の仲間と出会うことで孤立を防ぎ安心して暮らすことにつながる機会をつくる。

活動内容：年に一度 1 泊 2 日の多文化キャンプを実施し、ほかの女性 HIV 陽性者や医療者に出会う機会を作ってきた。2020 年度から形式をオンラインに変更している。

開催頻度：多文化キャンプは年に 1 回（新型コロナ予防対策のため中断中）

オンライン女性交流会は 2 ヶ月に 1 回（曜日、時間は不定）

委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

これまで実施してきた女性交流会「多文化キャンプ」は、他の女性 HIV 陽性者に出会う機会があまりない女性たちにとって、年に一度の仲間に出会える貴重な機会であったため、2020 年度の COVID-19 による中止を残念に思う声が多かった。そこでキャンプに代わるものとしてオンライン女性交流会を開催し、8 月から隔月で合計 4 回実施することが出来た。参加者は延べ人数 35 名で、その内、外国籍女性 10 名、新規参加者は 2 名であった。内容は、近況報告や個々の不安・疑問などを話すディスカッション形式のものを 2 回、他は医療者と話す会、ヨガなどテーマを決めて実施した。4 回とも週末の日中または夜に交流会を実施したが、平日の方が都合良いという女性もいたため、より多くの方が参加できるような日程調整は次年度の課題でもある。

参加した女性たちからは「オンラインでも他の女性たちに出会えるのはとても嬉しかった」「医療者と話せる機会があること、情報を共有できるのが良かった」という感想が聞かれたが、病気のことを気にせず自由に話ができるオンライン交流会は、キャンプと同様、女性たちの拠り所としてその機能を果たすことが出来た。また次年度に向けては、女性たちが関心のあるテーマを設け、そのテーマごとに希望者が参加しディスカッションの機会を持ちたいという希望も聞くことが出来たため、共通の悩みや課題を持つ仲間同士が語り合ったり、情報交換ができる場を作り、プログラムの質も向上させていきたい。

3-3) 薬物依存症からの回復を目指す陽性者のピアグループ「SPICA」

活動開始年：2012 年

活動内容：陽性者で薬物依存症からの回復を目指す人たちが集まる仲間(ピア)のグループミーティング。ミーティングに集まることによって依存症を抱えながら生活している人たちがそのしんどさを信頼できる仲間の中で吐き出し、薬物を使用しないで生きる方法を身につけるためにお互いの経験を聞き合う場である。

開催頻度：月 2 回 第二日曜日、第四土曜日 16:00-18:00 に開催。

委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

2020 年度は、薬物依存症からの回復途上にある人々は、新型コロナの影響を大きく受けた。感染症予防のために自粛を要請され、集会が中止となり、人と会えない孤独感やストレスの増加から依存症が悪化する人たちが増えた。逮捕拘留された人には毎月メンバーで手作りカードを書き、つながりを絶やさないようにしている。

月 2 回開催していたミーティングも 4 月、5 月は緊急事態宣言が発令され、感染予防のために集会を中止せざるを得なかった。そのことがさらに人々を孤立させた。6 月から再度ミーティングを再開し、オンライン参加も並行してできる体制をとった。ミーティング開催回数は 20 回、延べ参加人数は 50 名であった。



コロナ禍の厳しい時期は同時に依存症からの回復に何が必要なのかを示す時期ともなった。6月から3月までのミーティングでは、以下のテーマを話し合った。

- ・依存症からの回復のために SPICA はどのような場なのかについて話し合う
- ・回復に向かう岐路(ターニングポイント)とは
- ・連絡が取れなくなったメンバーへの関わり方
- ・ミーティングを始める前に読み合わせをするグラドルールの改定作業
- ・SPICA の趣旨の確認

2021 年 2 月 27 日に開催した SPICA 勉強会において出し合った意見は、依存症の背景と課題を表しているため今年度の報告書に記載する。

話し合いテーマ：私はなぜ依存症になったのか？ 回復のためには何が必要なのか？

- 薬物使用の根底には自分に対する嫌悪感がある。自分のセクシュアリティを受け入れられない、病気に関する知識はあるが HIV に感染したことを受け入れられない。
- 誰かとつながるためのセックスでさえも素面ではできないために薬を使った。
- 仕事のストレスから解放されるために薬が便利であった。
- 最初は興味本位であったものがどんどんと依存が強くなり、クスリに吞まれていった。
- 回復する/しないを決めるのは本人。覚悟が必要。
- 回復するための手段として NA(ナルコティック・アノニマス、薬物依存症のピアミーティング)に参加し続けること。ミーティングで人とのつながりができ、言葉をキャッチする力がついてくる。ストレスを発散する場としてミーティングを利用する。ミーティングは、毒を吐く場であって良いカッコする場ではない。それがやめ続ける秘訣である。薬を手放したことで得たことは大きい。

3-4) 新規オンラインミーティング

新型コロナの感染拡大により、人が集まることができなくなり人々は不要不急の外出の自粛、自宅勤務をすることが日常となった。HIV 陽性者は、基礎疾患を持つ人として慎重に行動していることから孤立している人も多くなり、直接出会う機会以外の方法を模索し、2つのオンラインプログラムを開始した。新しい時代の新しい方法として新型コロナ蔓延が生み出した産物である。

3-4-1) Social Connection -つながり-

同プログラムでは、陽性者だけではなく、CHARM に関わる人たちに対象者を広げ、背景の違いを越えて経験を聞き、意見交換をする機会を持った。海外での新型コロナの事情やセクシュアリティ、在日外国人の視点から日本社会の風習など日頃話題にすることがあまりない事柄について意見を交換する機会とした。

オンラインであるため、日本各地、そして海外からも毎回参加があった。9月より毎月第2土曜日に開催することとなった同プログラムは、合計10回を開催し、延べ147人の参加があった。

No.	日付	トピック	話題提供者	参加
1	6/20	新型コロナ(COVID-19)の最前線 保健所 帰国者接触者センターの働き 医療機関の働き 海外の事情 ペルー、香港、インド CHARM 会員総会として開催	酒井典子 白野倫徳 H.ルルデス 岡部正子 張ジェイソン	49 名
2	7/11	COVID-19 の各地の状況と受け止め方 Zoom 集会の継続開催について	岡部(インド) ヨシト(米国) 郭(台湾出身)	12 名

3	8/8	Social Connection として定期開催を続けていくことに向けての話し合い。	参加者による意見交換	9 名
4	9/12	多様なインドの医療体制 アユルヴェーダとホメオパシー	岡部(インド)	9 名
5	10/10	COVID-19 トンネルの中からピンチをチャンスに	参加者による意見交換	12 名
6	11/14	移民から見たドイツ ～暮らし、制度、国民性～	ニコール・コマファイ	14 名
7	12/12	男・女・そのあいだ	ワタル	11 名
8	1/9	男らしさ・女らしさ・～らしさ	ヨシト(米国)	11 名
9	2/13	他人に迷惑をかけてはいけない?迷惑は当たり前?	カリサ	15 名
10	3/13	2020 年度の振り返り、2021 年度の開催について	参加者による意見交換	9 名

3-4-2) Cooking with Japan'ease ingredients 日本の食材で料理しよう

活動開始年：2020 年 9 月

活動目的：日本で孤立しがちな外国人が楽しい食文化をテーマにお互いに又日本人ともつながる機会を持つ。

活動内容：日本で手に入る食材を使ったりモートの料理プログラム。プログラムは英語と日本語で行い、英語話者を中心に登録した人は誰でも参加できる。

開催頻度：毎月第 3 水曜日午後 8 時から 9 時

委託元：厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

日本に暮らす外国籍の人たちも新型コロナで大きな影響を受けた。1 年の契約で働いていて契約が更新されずにコロナ禍で新たな仕事を探さなければならなくなった人、探しても次の仕事がない人、非常勤の仕事が減った人、など様々である。このプログラムは、普通の料理教室とは違う。プログラムは毎回乾杯で始まる。食材のテーマに合わせた料理のレシピを参加者ができる方法(ライブ動画、パワーポイント、スライドショー、YouTube)で紹介する。英語と日本語で行われるプログラムには英語話者を中心に毎回外国籍の人たちと日本人が参加する。料理にはその背景にある家庭や民族のストーリーがあり、面白い。プログラムで習ったレシピを後日参加者が料理して LINE やインスタグラムで紹介するなどプログラム以外でも楽しくつながれる場となっている。

広報もインスタグラムを中心に言い、CHARM のことを全く知らない人でも参加できるオープンなプログラムとして開催したことも CHARM には珍しく、その成果は次年度に評価することになる。

No.	日時	取り上げた食材	参加人数(人)
1	9月9日	ニンニクの芽	7
2	10月21日	豆	8
3	11月18日	大根	8
4	12月16日	麺	8
5	1月20日	これからのプログラムの持ちかた	3
6	2月17日	ごま	5

4) 多言語支援

4-1) HIVと結核の通訳派遣事業

活動開始年：2002 年

目的：多言語を背景にする人が理解できる言語で安心して診療を受けることができるように、研修を受けた医療通訳者を医療機関、保健所などに派遣する。

活動内容：

1) HIV 通訳派遣

内容：HIV 陽性者の診療時、行政窓口やその他の手続きの際の同行通訳

委託元：2005-2016 年 関西 HIV 臨床カンファレンス他の助成により実施

2017-2020 年 厚生労働省 HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式

2) HIV 検査時通訳

内容：自治体や NGO が行う HIV 検査、結果返しの際の通訳(対面、遠隔)

委託元：京都市、MASH 大阪、スマートらいふネット

3) 結核通訳派遣

内容：結核感染者の受診、接触者検診、DOTS 指導、濃厚接触者等に関する聞き取りの際の保健師等と患者の間の通訳、資料翻訳(一部自治体)

委託元：大阪府、大阪市、堺市、八尾市、寝屋川市、枚方市、吹田市、高槻市、京都市

4) 感染症以外の通訳派遣

内容：通訳派遣が必要と思われる事案について、CHARM 財源で通訳者を派遣

5) 医療通訳研修

内容：登録通訳の知識更新のため、また新規の通訳者採用前の基礎知識習得のために実施

登録通訳者(2020 年度)：69 名、16 言語

4-1-1) HIV 通訳派遣

2020 年度の HIV 通訳派遣数は 118 件であった。英語と中国語の依頼がほとんどを占め、次にベトナム語が続いた。通訳派遣先医療機関としては、大阪医療センター及び兵庫県立尼崎総合医療センターへの英語、大阪医療センターへの中国語、堺市立総合医療センターへのベトナム語の回数が多かった。2019 年度多かったネパール語の依頼は減った。また新たな傾向として、今まで日本の医療とつながらず自国から薬を取り寄せていた HIV 感染者が新型コロナ流行の影響で国際移動が止まったため薬を手に入れない状況となり、CHARM に相談してきた。そのような人が関西圏の医療機関に受診したケースに関しては、通訳者派遣を行った。

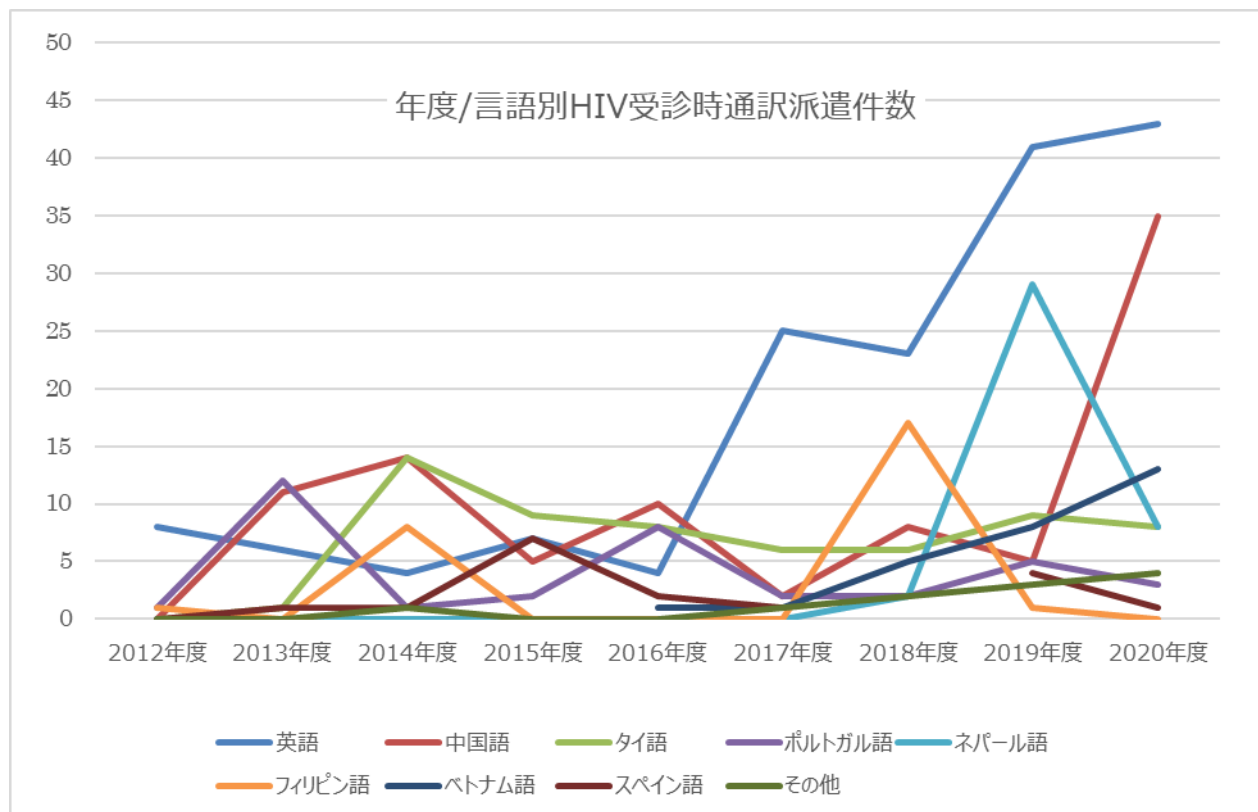
2020 年度 HIV 通訳派遣実績(件数)

	派遣先	英語	中国語	ネパール語	ベトナム語	フランス語	ポルトガル語	タイ語	その他
HIV 診療、 行政手続き等	大阪医療センター	13	15		2			7	
	大阪市立総合医療センター	4	7	3					
	堺市立総合医療センター		5		11				
	兵庫医科大学付属病院	4	8						

	兵庫県立尼崎総合医療センター	14		5					
	その他の医療機関	7					3	1	2
	行政機関同行	1	1		1				
	その他(自宅、CHARM など)		1			3			
	HIV 関連派遣合計	43	37	8	14	3	3	8	2

(合計 118 件)

HIV 通訳派遣数の言語別推移



通訳を派遣した言語について年度別に見ると、2016 年度から英語の通訳派遣が増加している。英語は母国語とする人だけでなく、第 2 言語、第 3 言語とする人からの通訳依頼が多く、2020 年度の英語を派遣した依頼者の国籍は、カメルーン、南アフリカ、インドネシア、ミャンマー、チュニジアなどであった。

感染症科での通訳だけでなく他科での受診や、ソーシャルワーカー(以下 MSW)との面接が必要なケースが多かった(118 件中、MSW との面談が 55 件)。MSW との面談は、新しく HIV の治療を開始する際の社会保障を利用するための新規の申請、その後の変更申請手続や継続申請など、様々な場面での通訳だった。

4-1-2) HIV 検査時通訳

大阪市内の保健福祉センターで実施されている定例 HIV 検査後の陽性告知の際の中国語、ベトナム語の通訳を計 3 回派遣した。保健福祉センターの HIV 検査にも言葉の理解が十分でない人が受検していることから、2020 年度より予算が計上され、実際に派遣に至った。

大阪市内で時間外に HIV などの検査を提供している chotCAST が 6 月以降月 1 回外国語対応の体制を助成金を得て整備し、通訳支援を CHARM が担った。受検の際は中国語と英語の通訳者が待機し、zoom を使った遠隔通訳を実施した。陽性告知の際は通訳者が現場に出向いて通訳を行った。

昨年度も行ったコミュニティーセンターdista におけるゲイ・バイセクシュアル向けの HIV 検査において英語、中国語で通訳を 6 回行った。感染防止の観点から検査の際は zoom を利用した遠隔通訳を行い、陽性告知の際には、英語通訳者を 1 回派遣した。

新型コロナ流行の影響で、京都市 HIV 夜間検査が 5 月以降 2021 年 3 月まで休止となり、2019 年 93 件だった派遣数が、2020 年度は 5 件であった。休止の間も京都市 HIV 夜間検査を受けたいという問い合わせが数件あり、木曜日夜間検査が定着していたことを反映していた。2021 年度から検査会場は、以前の京都駅前ではなくなるが、検査が再開することで英語通訳を必要とする人が再度検査を受けやすくなると思われる。

2020 年度 HIV 検査時通訳派遣実績(件数)

	派遣先	英語	中国語	ベトナム語	インドネシア語
HIV 検査	京都市下京区役所	5			
	dista キャンペーン検査	7	6		
	chotCAST	8	8	1	1
	HIV 検査関連派遣合計	20	14	1	1

(合計 36 件)

4-1-3) 結核通訳派遣

結核通訳では 2020 年度新たに高槻市、吹田市と感染症医療通訳派遣委託契約を締結した。

結核通訳派遣は 40 件であった(2019 年度は 65 件)。2019 年度は 7 つの自治体から依頼があったが、2020 年度は 3 つに留まった。2 つの集団で濃厚接触者の中から複数の QFT 検査陽性、結核発症者がみつかった。病院での入院中の患者への通訳、保健福祉センターでの接触者検診時の通訳、自宅での DOTS 指導等の通訳を行った。

2020 年度結核通訳派遣実績(件数)

依頼先	派遣先	英語	中国語	フィリピン語	ネパール語	ベトナム語	スペイン語	ハングル	インドネシア語	ヒンディー語
大阪市	城東区保健福祉センター					1				
	西淀川区保健福祉センター						3			
	中央区保健福祉センター		1							
	港区保健福祉センター		1							
	東成区保健福祉センター				1	1				
	生野区保健福祉センター			1		1				
	大正区保健福祉センター		2							
	大阪はびきの医療センター		1			2	4			
	近畿中央呼吸器センター		1			1				
	阪奈病院					1				1

	その他の医療機関			1		2				
	ゆうせい薬局						1			
	日本語学校					2				
	患者自宅		5					1		
	職場					1				1
吹田市	患者自宅								1	
京都市	京都桂病院								1	
	患者自宅					1				
	結核関連派遣合計	0	11	2	1	13	8	1	2	2

(合計 40 件)

4-1-4) 感染症以外の通訳派遣

2020 年度、委託事業の対象とならない分野の通訳派遣を 1 人に対して 3 回実施した。HIV に関わる通訳を派遣している公的病院の感染症科の医師からの依頼でガン患者の告知、手術前説明、術後の化学療法の説明の際の通訳を派遣した。日本語の日常会話に問題がない患者であったが、通訳がない受診では、理解できない医療用語や理解できても実感できない内容があり、通訳を介した説明を聞いた後、納得して治療方法を選択した。

大阪府では 2019 年度から府下で利用登録した医療機関向けに電話で医療通訳するシステムを実施している。しかしながら、重篤なケースでは、安心して治療を受ける環境を作るの一つとして母国語と日本語を話す通訳者の寄り添いが必要である。このようなニードがどれくらいあるのか、どのような通訳研修が必要になるのか、など次年度検討していく予定である。

4-1-5) 医療通訳者研修

HIV／結核通訳研修の通訳養成講座を開催し、4 日間の通訳研修を行った。

2020 年度は、昨年に続き、杏林大学北島勉氏を代表とする研究事業⁽¹⁾の一環として関東の研究者、医療者の協力を得て実施した。

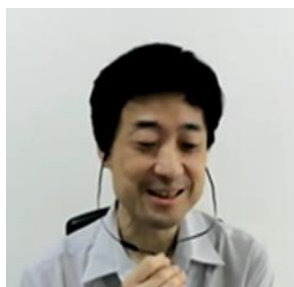
研修日程：1)8 月 1 日 13:00～17:00、2)9 月 5 日 13:00～17:00、3)10 月 3 日 9:30～17:00、
4) 11 月 21 日 13:00～17:00

目的：新しい医療通訳者の養成、そしてすでに登録している通訳者へのフォローアップ

言語別研修参加者：英語 9 人、中国語 3 人、ネパール語 6 人、タイ語 3 人、タガログ語 1 人、タガログ語/英語 2 人、タガログ語/英語/ビサヤ語 1 人、ベトナム語 1 人、ベトナム語/英語 1 人、英語/ミャンマー語/スペイン語 1 人、ミャンマー語 1 人、中国語/マレー語 1 人、インドネシア語 1 人、延べ 95 人

☆研修後、2020 年度に新規登録した通訳者は 7 名だった(英語 1 名、中国語 2 名、ネパール語 2 名、ネパール語翻訳者 1 名)

形態：新型コロナ流行の影響を受け、zoom による遠隔研修となった。



内容 : 1) 医療通訳に必要な結核・エイズの基礎知識

2) 通訳技法、通訳基礎トレーニング

3) 遠隔通訳の活用を考える、感染症通訳のための実技演習

演習実施言語：ネパール語、フィリピン語、中国語(その他の言語通訳者は見学)

演習場面：a)保健師の結核患者訪問時の通訳、b)エイズの告知や治療場面での通訳

4) 新型コロナと外国人コミュニティ、医療通訳の職業倫理、ケーススタディ

業務委託を受けたことで、例年より講義数を増やすことが可能となり、また関東で活動している講師や話題提供者の協力を得ることができた。

(1) 2020 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策事業「HIV 検査と医療サービスへのアクセス向上に資する多言語対応モデルの構築に関する研究」班 研究代表者：北島勉による委託事業

4-2) 検査結果説明資料の改定

CHARM は、2013 年に HIV 検査会場で使用する検査結果説明パンフレットを作成し、発行した。A4 裏表のパンフレットには HIV 感染症に関しての基本情報、新しい国際基準、HIV 陽性者として生きることに関する情報、などが網羅され、高い評価を受けてきた。多くの自治体で保健所が利用することを希望し現在に至る。同パンフレットは、2015 年にエイズ予防財団の助成により 7 言語に翻訳して発行した。2020 年に日本語版パンフレットの改定に合わせて、多言語版(英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、タイ語、フィリピン語)も改定した。加えて近年の来日外国人の人口の変化に伴いインドネシア語、ベトナム語版を追加した。日本語および 9 言語の翻訳版は、全国の保健所や医療機関でダウンロードして利用できるように、CHARM のホームページなどに掲載する予定である。

4-3) 翻訳

行政機関や陽性者支援団体などから HIV や結核に関連する資料などの翻訳の依頼があり、対応した。実績は下記の通り。

依頼元	内容	言語
支援団体	書類	英語→日本語
自治体	結核患者向けの情報	日本語→ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、中国語(簡体字)、フィリピン語、英語
支援団体	書類	フランス語→日本語
自治体	結核患者向けの情報	日本語→ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、ミャンマー語、中国語、フィリピン語、英語
非営利団体	検査関連資料	英語→日本語
民間企業	検査関連資料	日本語→英語

5) 調査研究

厚生労働研究補助金エイズ対策研究事業「感染症およびその合併症の課題を克服する研究」研究代表者
白阪琢磨 HIV 陽性者の地方コミュニティでの受け入れに関する研究

目的：関西圏において HIV 陽性者が高齢になっても安心して自分らしく生きることができるために何が必要かを医療と地域支援の両方から検討し、成果物を製作した。

期間：2018～2020 年度

研究代表者：武田丈

研究協力者：松浦基夫他 11 名

HIV が長期療養の疾患となり、HIV 陽性者の大半は、1-3 カ月に一度医療機関で体調を確認して薬の処方を受けながら生活をしている。基礎疾患を抱える人は複数の治療をしながら生活している。

高齢化にともない医療や福祉の支援が必要となった時にも安心して生活していくために何が必要かについて医療の連携と地域の支援の両面から 3 年間調査研究を行った。

2020 年度は、研究の最終年としてこれまでの研究から明らかになった課題を具体的に埋めるための成果物を作成した。1 つ目に、プライマリケア医を対象としたオンラインビデオを作成して無料で配信した。ビデオの作成は、医師の生涯教育を支える e ラーニングサービスを提供する企業であるケアネットと連携した結果、ビデオは 17 万人の会員が閲覧できるようになっている。専門医以外の人たちが医療の基礎情報を知り、地域で診療できる医療者が増えていることが陽性者にとって安心材料の一つとなる。オンラインビデオは CHARM のホームページで閲覧することができる。<http://www.charmjapan.com/resources/>



成果物の二つ目は、「新・おくすり手帳」大阪版の発行である。HIV 陽性者は、健康を維持するために複数の医療機関を受診しており、服薬する薬も増えている。薬の副作用などを心配することなく複数の医療機関を受診し続けるため、自分の身体状態を複数の医療者に知ってもらいたいと考える HIV 陽性者が利用できる冊子である。冊子は、お薬手帳の形態をとっているが、最新の検査データや受診記録が記載されているため、患者の全体を理解することに役立つ。HIV 診療は、薬に負う部分が大いことからエイズ拠点病院他の薬剤師もチームに含むことができる形となっている。あくまでも患者が主体となって医療支援体制を構築するために使う資料として大阪版を発行した。大阪府内で診療を行っているエイズ拠点病院を中心に試験的に使用して反応を検討する予定である。



6) 実習生・研修及び受け入れ

日 時	主催機関・対象者	実施内容	参加者数	担当者
2020 年 7 月 27～31 日 8 月 3～7 日	大手前大学国際看護学科	HIV 陽性者の生活支援についての現場実習	2 名	スタッフ全員
10 月 1 日	大阪大学医学部実地研修	施設見学と講義 日本に暮らす外国人の状況と CHARM の陽性者支援	6 名	青木理恵子 陽性者 1 名
10 月 21 日	大阪医療センター HIV 感染症医師、看護師研修	施設見学と講義 日本に暮らす外国人の状況と CHARM の陽性者支援	医師 1 名	青木理恵子
12 月 16 日	大手前大学国際看護学科 国際看護基礎演習	外国人支援を行う団体现場体験実習を予定していたが新型コロナにより講義形式に変更	30 名	スタッフ全員 塩野徳史
2021 年 2 月 1 日	大手前大学国際看護学科 国際看護学実習 I	日本語を解さない患者への看護について実践的に学ぶ	39 名	スタッフ全員

7) 広報

CHARM のホームページで日本語を含む 10 言語で情報を発信した結果、2020 年度は日本に在住している人及び、これから日本に来日予定の外国人からの問い合わせが 48 件あった。(2019 年は 21 件)。

昨年に比べて問合せ件数が倍増した。昨年度のホームページ多言語改定の効果が少しずつ表れていると考える。

英語、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、中国語、タイ語に加えて、ベトナム語の問い合わせが寄せられた。ホームページの閲覧数の年間平均は 11,281/月で、2019 年度の 11,170/月とほぼ横ばいであった。ホームページの閲覧につながるように、今後も SNS(Twitter, Facebook)を活用し、多言語情報の発信を続けていく。

8) 理事会

理事長 松浦基夫

副理事長 武田丈

理事 中萩エルザ、白野倫徳、福村和美、川名奈央子、エレラ・ルルデス・ロザリオ

監事 三保俊幸

今年度は、会議を 1 回開催して協議検討を行った。

日時： 2021 年 3 月 21 日 10:00-12:00

参加： 理事(出席 5 名、委任出席 2 名)、監事 1 名、事務局 2 名

議案： 1) CHARM 会員の定義と区分 承認

会員は、正会員(年額 3000 円)、サポーター(賛助)A 年額 3,000 円、
サポーター(賛助)B 年額 5,000 円、団体/法人サポーター 1 口 1 万円とする。

2) 2021 年度事業計画・予算 承認

3) 2022 年の CHARM20 周年に向けて 20 周年事業実行委員会を設置し、

これからの CHARM の展開について検討する。祝会も企画する。 承認

4) HIV 陽性者総合相談窓口を設置して総合的な相談をメールで受ける。 承認

5) 総理大臣宛 ミャンマー市民の人権を守るためのアクション要望への参加。 承認

9) 会員総会

日時：2020年6月20日(土) 15:00-17:00

手段：zoomによるオンライン開催

出席：正会員 43 名(書面決議) 当日オンライン出席者 49 名(内傍聴 14 名)

議事：2019 年度の事業報告及び活動決算について

2020 年度の事業計画及び活動予算について

監事の就任

理事の再任

基調講演：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の最前線

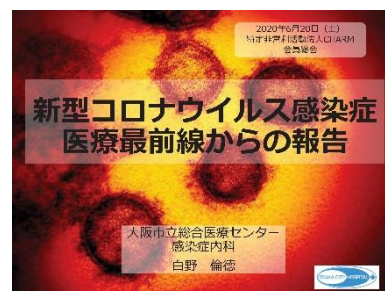
保健所 帰国者・接触者センターの働き 大阪府保健師 酒井典子

医療機関の働き 大阪市立総合医療センター 白野倫徳

海外の事情 ペルー H.ルルデス

香港 張ジェイソン

インド 岡部正子



10) 事務局

青木理恵子 (事務局長、理事会、総務、SPICA、陽性者個別相談)

庵原典子 (通訳派遣事業)

プラーボンキワラシ (広報全般、外国語によるエイズ電話相談、オンラインプログラム)

オンバダ香織 (女性陽性者交流会、オンラインプログラム)

前田圭子 (会員管理、ひよこクラブ、オンラインプログラム)

松原光与 (会計、総務)

三田洋子 (エイズ専門相談、そよかぜ)

年度始めから緊急事態宣言が出されていた 2020 年度は、対面支援以外のコーディネーター業務及び事務業務は各自が自宅で行った。職員間はオンラインで連絡を取り合った。意思疎通の誤差を少なくするために職員会議の回数を増やして開催した。また職員集団としての合意形成の積み重ねのために直接話し合うチームビルディングを 3 回開催し、CHARM の理念に照らし合わせ今何をすべきなのかについての話し合いを行った。

2020 年 10 月 22 日 CHARM 事務局チームとしての意識の確認

2021 年 1 月 28 日 CHARM の理念に照らし合わせて、今取り組む必要がある方向は？

2021 年 3 月 15 日 外国籍住民医療支援 感染症以外の分野に拡げる可能性 範囲、手段、財源。



外国人患者の支援の必要性は、感染症以外に母子保健、慢性疾患、在留資格のない人の医療アクセス、など数多い。一方現実的な展開の方法、CHARM がどの分野で継続的に実施できるかについては道筋が見出せていない。来年度引き続き協議し、提案していく。

11) 会員

会員数 100 名 (前年比 +2 名)

〈内訳〉

正会員 38 名

サポーター(賛助) A 33 名

サポーター(賛助) B 27 名

法人/団体サポーター 2 (15口)

12) 寄付者一覧(敬称略)

○寄付 個人

荒巻 富美、安間 ちよう子、飯田 奈美子、岩元 美和子、宇野 健司、Ema Hiura、大久保 絹、織田 幸子、上内 鏡子、来住 知美、木下 浩一、黒木 保博、黒木 順子、ウィットマー圭子、小西 加保留、小柳 ゆみ子、白野 倫徳、鈴木 雅子、岳中 美江、田守 敏樹、崔 金順、豊島 裕子、中路 綾夏、成田 康子、狭間 明日美、福嶋 眞一、藤井 寛人、細田 和民、前田 圭子、松浦 千恵、松浦 夏子、松浦 基夫、三田 洋子、宮田 りい、宮本 久子、山口 和子、山口 樹子、山本 一成、山本 いづみ、ロブ ウィットマー、匿名2人

○寄付 団体

日本基督教団 池田五月山教会

日本基督教団 京都上賀茂教会

13) コングラントサービスの導入 (会費納入・ご寄付をより簡単に)

CHARM の経済的運営基盤は、会費、賛助費(サポーター)、ご寄付で成り立っている。サポーターを増やし、ご寄付を依頼するには、より多くの方に CHARM の活動を理解、共感していただかなければならない。またコロナ禍、自宅や海外からでも会費納入、ご寄付をしていただけるように、今年度からコングラントのサービスを利用することにした。11 月からの導入だったが、これまでと比べ接触のない方からのサポーターへの参加や、寄付をしてくださる個人の人数も確実に増加している。

コングラントは NPO 法人や社会的企業など、非営利活動に取り組むすべての団体の寄付募集・管理を応援するファンディングツールである。コングラントに団体登録するためには、他団体の活動紹介や社会への貢献度、ビジュアル、アピール力や表現力を再考する良い機会となった。

会員、寄付者の皆様にとっては、会費、ご寄付の支払い方法にクレジットカード決済が可能となった。時間にかかわらずご自宅にいながら CHARM のホームページから簡単に操作できる。今後も皆さまに「便利でわかりやすいね」と言っていたような様々な工夫を検討したい。



